

原稿募集案内

「鉄と鋼」特集号原稿募集

テーマ：鉄鋼製造のための新しい計測技術

原稿締切日 昭和 58 年 11 月 10 日 (木)

鉄鋼の製造プロセスは、多くのプロセス・パラメータによりその状況が支配されている。1. 圧力・荷重，2. 変位・変形，3. 形状，4. 速度・加速度，5. 流量，6. 温度，7. 疵，8. 表面性状，9. 材質・組織，等の計測の対象とすべき要目や現象は多い。現在，プロセス自動化の充実は目ざましく，制御の面でも新技術の開発が盛に行われているが，なお，計測技術の進歩・発展にまたなければ十分な制御技術の進展は望めない。そこで今回は，計測技術を中心に特集号を企画した。

下記により原稿募集いたしますのでご投稿下さい。

記

1. 原稿締切日 昭和 58 年 11 月 10 日 (木)
2. 発行 鉄と鋼第 70 年第 9 号 (昭和 59 年 7 月号)
3. 原稿枚数 1) 論文は刷り上り 8 ページ以内 (表，図，写真を含めて本会所定の原稿用紙 40枚以内)
2) 技術報告は刷り上り 7 ページ以内 (〃 35枚以内)
3) 寄書は刷り上り 3 ページ以内 (〃 15枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。
・投稿された論文は編集委員会において審査されます。

4. 問い合わせ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F

(社)日本鉄鋼協会編集課 電話 03-279-6021 (代)

(注) 投稿時，原稿表紙に「計測特集号」と朱書して下さい。

編集後記

本号は「鉄と鋼」には無関係ともみえる AI 溶鋳炉製錬に関する解説を掲載した。この問題には種々の意見があり，これに対する反論をも掲載する予定である。

AI 溶鋳炉製錬は溶鋳炉屋が現高炉プロセスを念頭に置く限り不可能な技術かもしれない。しかし，独創的な発想は常に反論を浴びることも，また事実であろう。論議を闘わず過程で，年々蓄積された既成概念を払拭し，発想の転換を図る契機ともなれば意義深いものとなる。この発想の転換は独創性を発揮するための必要条件である。

最近，論文を査読する過程で，論文の著者は自己の独創性をもつと強く PR すべきであることを痛感す

る。独創性とは単なる突飛な考え方とは異なり，他人のまねをせず自分の考えに従って物事を発展させることである。従って，独創性を打ち出すにはフィロソフィが必要であり，論文は明確なフィロソフィのもとに作成されねばならない。研究の何が独創的であるかを突き詰めて考えることによつて，自ら，扱う対象のあるべき姿，期待される結果が彷彿として浮かび上がり，自らの技術の寄与すべき対象が明確になるであろう。

「鉄の時代は終わった」と性急な論議も飛び出す昨今ではあるが，まだまだ「鉄は拓ける」と確信する一人として，ますます，独創性あるユニークな投稿を懇願する次第である。(S. I.)